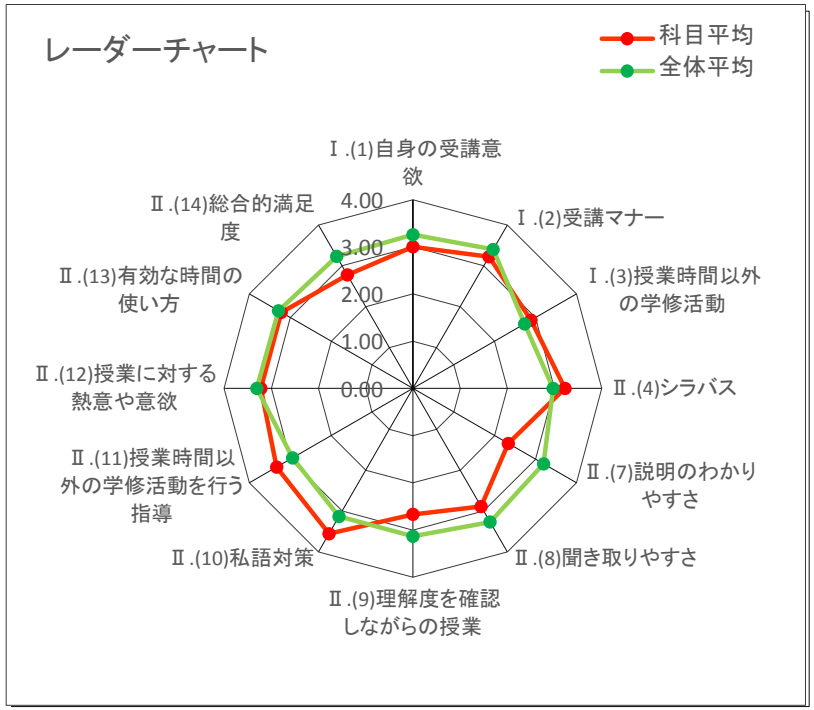
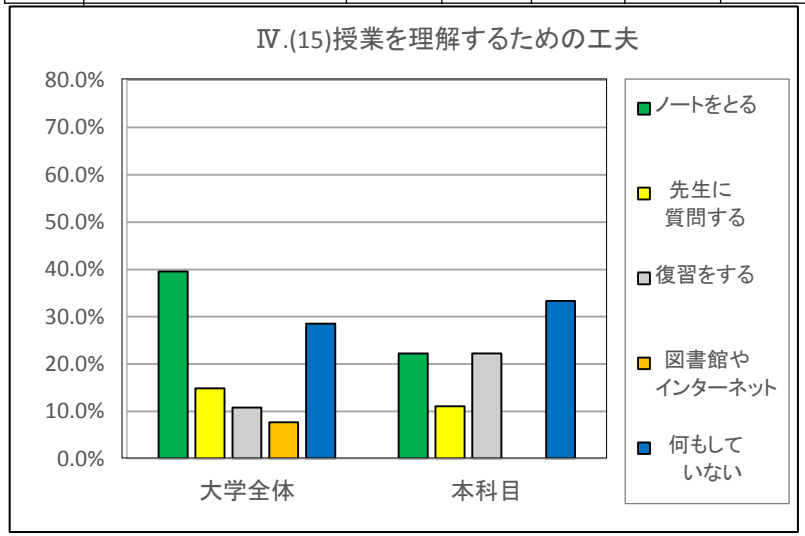
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.00	3.26
	Ⅰ.(2)	3.22	3.40
	Ⅰ.(3)	2.89	2.73
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.22	2.97
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	2.33	3.20
	Ⅱ.(8)	2.89	3.27
	Ⅱ.(9)	2.67	3.13
	Ⅱ.(10)	3.56	3.13
	Ⅱ.(11)	3.33	2.94
	Ⅱ.(12)	3.22	3.31
	Ⅱ.(13)	3.22	3.29
満足度	Ⅱ.(14)	2.78	3.23

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2,（あまりそう思わない）、1（そう思わない）

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(15)	授業を理解するための工夫	22.2%	11.1%	22.2%	0.0%	33.3%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.04	3.13
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(13)	3.06	3.15
総合的満足度 Ⅲ.(14)	2.78	3.23

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度　前期
時間割番号	14304/14354
科目名	マクロ経済学Ⅰ/マクロ経済学
教員名	

①授業計画の達成度について

授業計画は、LM関係ないしLM曲線の導出に至らず、IS・LMモデルの入り口までという所期の目標が達成されなかった。ただ、IS関係ないしIS曲線の背後にある考え方（消費の捉え方、投資のエッセス）や、資産としての貨幣の捉え方（この論点はこれまでもこれからも、とくに金融政策の非対称性の点で、争点であろう）についてはこれまでに増して時間を割いて解説をすることが出来たのではないかと、考えている。担当者にとっては毎年行う授業である一方、学生にとっては初めて接する知識という落差もあり、試験の結果を一通り眺めてみても、担当者の意図がなかなか伝わっていないのではないかと振り返っている。モデルの操作といった狭い捉え方でなく、現実との接点、学説の多様性という角度から、この科目の内容を広く捉えてほしいというのが担当者の意図するところであり一層の工夫が必要と考える。

②授業の進め方について

ほぼ毎回、レジュメを配布しそれに沿ってときに板書を行いながら授業をした。前半5回は、参考文献や新聞記事を用いた記述式の復習課題を課していたが、途中から（受講生・担当者双方の）余裕がなくなってしまい、受講生の反応を見ながら、前回の復習、当該トピックスのマクロ体系全体における位置づけの説明を行ってから新しいトピックスに入るという授業展開をした。話は、1コマ授業内で一話完結させ、積み上げて各トピックスの連絡を意識しながら復習を徹底してほしいという意図があった。授業に際して学生は時間厳守であり、私語対策をする必要も一切なく、授業は行いやすかった。ただ学生に求めることとして、資料整理、漠然とわからない、むずかしいという感覚から一歩進めて、疑問点の明確化と質問を小刻みに行ってもらいたい。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

幾人かの熱心な受講生たちにより、形式論理的なことよりも現実の経済常識を身に着けていきたいという要望が寄せられている。しかしマクロ経済学の骨格は、きわめて初等的な記号演算のみで構成されており、それゆえに、これを学んだ誰によっても現実経済の一端を分析・解釈することが出来る。この点は、受講には新課程の「基礎数学Ⅱ」レベルが必要とシラバスにも明記しているから、このレベルの計算技術を準備の上、あるいは復習をしながら学んでもらえるような工夫をしたい＜理解度の小刻みの確認として＞。これに加えて、基本モデルによる分析結果と、過去の経済動向の整合性などの資料を作成し、受講生たちが、マクロ経済学の潜在的な力と生きた知識を学んだことの達成感を実感できるように配慮することが必要と考えている。

奈良学園大学